製造業会計

製造業会計とは

【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

製造業会計について理解しよう！

（１）製造業会計とは

製造業会計は、原価計算を必要とするため、基本的には工業簿記の出題範囲と言えます。しかし、工業簿記では、期中における取引の記帳や原価計算に関する問題が中心となるため、製造業を営む会社の総合的な決算に関する問題が出題しにくいとのことから、製造業特有の期末の決算整理事項や財務諸表作成を問う部分については、商業簿記から出題されることとなりました。

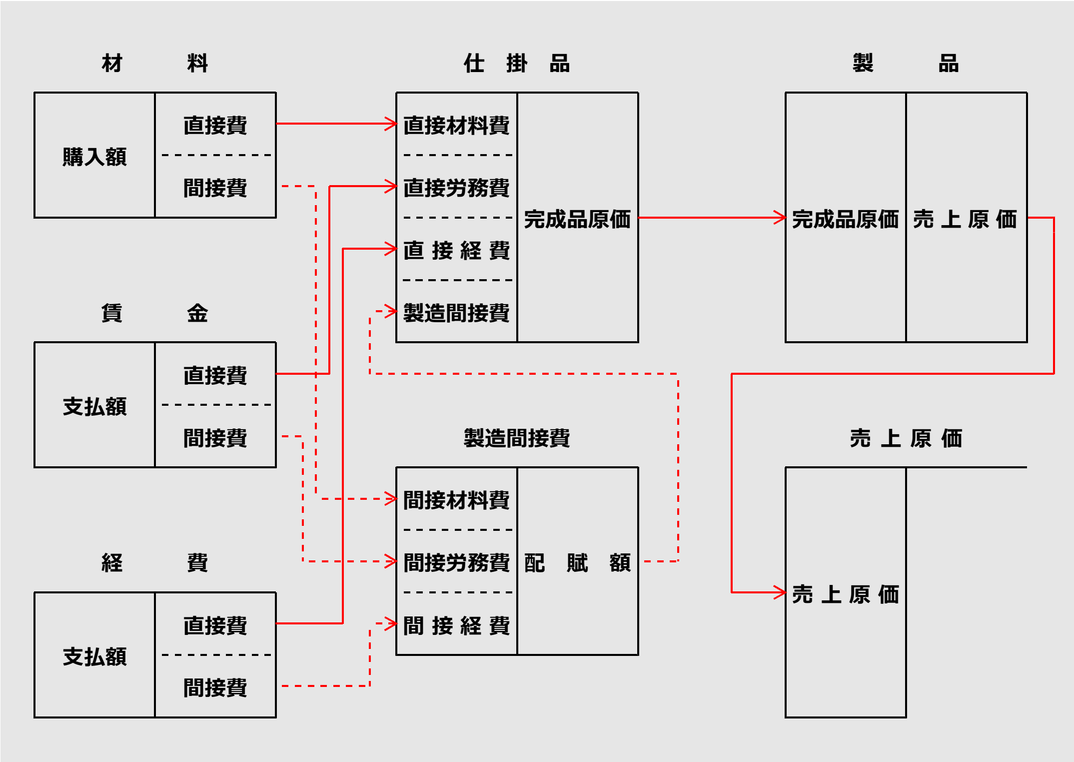
なお、本テーマは、工業簿記の知識を前提としますので、工業簿記の学習後に、学習して下さい。また、本テーマでは、**個別原価計算**を前提としています。

（２）原価計算期間

通常、**1月単位**で原価計算を行います。したがって、毎月の月次決算において、決算整理を行っています。例えば、減価償却については、毎月次決算で1月分の減価償却費を計上しています。

（３）勘定連絡図

参考として、**個別原価計算**における「勘定連絡図」を以下に示しておきます。



決算整理

【重要性：C】

ＰＯＩＮＴ！

①　製造業における決算整理を理解しよう！

②　仕訳をマスターしよう！

主な勘定科目

「材料」勘定（資産)、「賃金」勘定（費用)、「経費」勘定（費用）

「製造間接費」勘定（費用）

「仕掛品」勘定（資産)、「製品」勘定（資産）

「売上原価」勘定（費用)、「原価差異」勘定

（1）材料費

工業簿記では通常、材料の仕入時に「**材料**」勘定（資産）を用いて処理します。例えば、材料を掛けで仕入れた場合、以下の仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
材料	×××	**買掛金**	×××

当月に材料を直接材料と間接材料として消費した場合、月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。なお、ここでは、製造原価を集計する勘定として「**仕掛品**」勘定（資産）、製造間接費を集計する勘定として「**製造間接費**」勘定（費用）を用いているものとします（以下、同様です）。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	×××	**材料**	×××
製造間接費	×××		

例題　**3月における材料の掛仕入は60,000円であった。また、3月における直接材料費は50,000円、間接材料費は9,000円であった。なお、決算日は毎年3月末日である。**

当期の2月末の残高試算表（一部）

材料	**8,000**	

①　3月の期中仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
材料	**60,000**	**買掛金**	**60,000**

②　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	**50,000**	**材料**	**59,000**
製造間接費	**9,000**		

③　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表（一部）

材料	9,000	

（2）労務費

工業簿記では通常、労務費について「**賃金**」勘定（費用）を用いて処理します。例えば、賃金を現金で支払った場合、以下の仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃金	×××	**現金**	×××

当月に直接労務費と間接労務費が生じた場合、月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	×××	**賃金**	×××
製造間接費	×××		

例題　**3月に直接工へ賃金として40,000円を現金で支払った。そのうち、直接作業賃金が35,000円であり、残りは間接的な作業のための賃金であった。なお、決算日は毎年3月末日である。**

①　3月の期中仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
賃金	**40,000**	**現金**	**40,000**

②　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	**35,000**	**賃金**	**40,000**
製造間接費	**5,000**		

（3）経費

工業簿記では通常、経費については、水道光熱費、減価償却費といったそれぞれの勘定（費用）を用いて処理します。以下の仕訳では、「経費」勘定（費用）で示します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
経費	×××	**現金**	×××

当月に直接経費と間接経費が生じた場合、月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	×××	**経費**	×××
製造間接費	×××		

例題　**3月に経費として30,000円を現金で支払った。3月における直接経費は27,000円、間接経費は3,000円であった。なお、決算日は毎年3月末日である。**

①　3月の期中仕訳

借方科目	金額	貸方科目	金額
経費	**30,000**	**現金**	**30,000**

②　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	**27,000**	**経費**	**30,000**
製造間接費	**3,000**		

（４）製造原価と販売費及び一般管理費の按分

製造業の場合、費用の中には製造に係る分と販売活動や管理活動に係る分が含まれている場合があります。例えば、工場の建物のうち、80%は製造活動に使用しており、20%は管理活動に使用しているという場合です。

その場合、製造に係る分については「製造原価」、販売活動や管理活動に係る分については「販売費及び一般管理費」とするために、按分する必要があります。

例題　固定資産の減価償却は、期首に年間発生額を見積もり、以下の月割額を毎月計上し、決算月も同様な処理を行う。なお、決算日は毎年3月末日である。

建物減価償却費10,000円（製造活動用8,000円、販売・一般管理用2,000円）

2月末の残高試算表（一部）

建　物	**2,400,000**	**建物減価償却累計額**	**710,000**
減価償却費	**22,000**		

①　決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
減価償却費	**10,000**	**建物減価償却累計額**	**10,000**
製造間接費	**8,000**	**減価償却費**	**8,000**

②　決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表に計上されている減価償却費24,000円は、損益計算書の「販売費及び一般管理費」に計上されます。

決算整理後残高試算表（一部）

建　物	2,400,000	建物減価償却累計額	720,000
減価償却費	24,000		

（５）製造間接費

製造間接費を製造原価に振り替える場合、月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　掛　品	×××	**製 造 間 接 費**	×××

例題　**3月に発生した製造間接費は25,000円であった。なお、決算日は毎年3月末日である。**

・決算整理

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
仕　掛　品	**25,000**	**製 造 間 接 費**	**25,000**

（６）完成品の振替

工業簿記では通常、完成品について「**製品**」勘定（資産）を用いて処理します。月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
製　　品	×××	**仕　掛　品**	×××

例題　**3月に完成した製品の原価は120,000円であった。なお、決算日は毎年3月末日である。**

・決算整理

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
製　　品	**120,000**	**仕　掛　品**	**120,000**

（７）売上原価への振替

工業簿記では通常、売上原価について「**売上原価**」勘定（費用）を用いて処理します。月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　上　　原　　価	×××	**製　　　　　　品**	×××

例題　**3月の売上原価は130,000円であった。なお、決算日は毎年3月末日である。**

・決算整理

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
売　　上　　原　　価	**130,000**	**製　　　　　　品**	**130,000**

（８）原価差異

予定価格等を用いることによって、原価差異（げんかさい）が生じる場合があります。通常、原価差異はいったん「原価差異」勘定で処理します。なお、原価差異には**有利差異（ゆうりさい）（貸方差異）**と**不利差異（ふりさい）（借方差異）**があります。例えば、製造間接費について予定配賦を行っている場合で原価差異が生じた時には、月次決算（又は年度決算）において、以下の仕訳を行います。

また、原価差異の処理方法はいくつかの方法がありますが、ここでは売上原価へ賦課する場合の仕訳を示します。**有利差異（貸方差異）**を売上原価に賦課すると**売上原価から減算**され、**不利差異（借方差異）**を売上原価に賦課すると**売上原価に加算**されます。

① 有利差異（貸方差異）

・原価差異の発生時

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	×××	**製造間接費**	×××
		原価差異	×××

・原価差異を売上原価へ賦課

借方科目	金額	貸方科目	金額
原価差異	×××	**売上原価**	×××

② 不利差異（借方差異）

・原価差異の発生時

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	×××	**製造間接費**	×××
原価差異	×××		

・原価差異を売上原価へ賦課

借方科目	金額	貸方科目	金額
売上原価	×××	**原価差異**	×××

例題　3月における製造間接費予定配賦額は24,000円で、実際に発生した製造間接費は23,500円であった。原価差異は比較的少額であり、正常な原因によるものであったため、売上原価に賦課する。なお、決算日は毎年3月末日である。

・決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	**24,000**	**製造間接費**	**23,500**
		原価差異	**500**
原価差異	**500**	**売上原価**	**500**

例題　3月における製造間接費予定配賦額は24,000円で、実際に発生した製造間接費は25,000円であった。原価差異は比較的少額であり、正常な原因によるものであったため、売上原価に賦課する。なお、決算日は毎年3月末日である。

・決算整理

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品	**24,000**	**製造間接費**	**25,000**
原価差異	**1,000**		
売上原価	**1,000**	**原価差異**	**1,000**